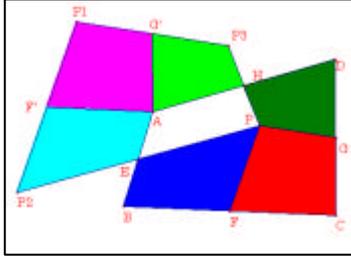
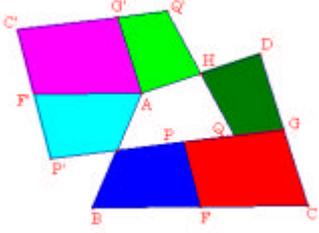


<p>本時の目標と展開</p>	
<p>三角形・四角形の性質を用いて証明することによって、図形への理解を深めたり、定理の有用性を感得させる。四角形をいろいろな図形に変形できることに興味を持ち、数学的な図形の美しさに気づく。</p>	
<p>学 習 活 動</p>	<p>指導上の留意点</p>
<p>本時の学習課題を知り、ブラウザを起動し、HPを開く。 http://www2.wind.ne.jp/mow/math/cabri/</p>	<p>ブラウザの「お気に入り」やリンク集にホームページを登録しておき、マウス操作だけできるようにしておく。</p>
<p>「四角形の変形1」のホームページを開き、図形の特徴を知る。</p> <p>四角形PFCGを点Cが点Aに重なるように平行移動する。四角形PEBFを点Eに対して点対称移動する。四角形PGDHを点Hに対して点対称移動する。</p> <p>そのよきうにし てきたた四角形 P3P2P1は四角形ABC Dと面積が等 くなる。</p> 	<p>CABRI を使い、計測機能を使ったり、点Pを移動させて図形の性質が保たれることを理解させる。</p>
<p>点Pの位置と変形した図形の特徴との関連を調べる。</p>	<p>単に図形の弁別を行うだけでなく、その図形になる理由を図形の性質を使って説明させる。その理由となる「図形の性質」を保つように変形すると同様の図形になることを確かめさせる。目的とする図形が定まらない生徒には三角形、平行四辺形など、具体目標を与える。</p>
<p>辺A、B、C、Dの結びつきを分り、移動し、変形した図形との関連を調べる。</p> <p>辺E、F、G、Hの結びつきを分り、移動し、変形した図形との関連を調べる。</p> 	<p>と同様に「図形の性質」という視点から図形について考察させ、図形に対する理解を深めさせる。</p> <p>理解が遅れがちな生徒には、対応する角や平行四辺形や長方形などになるための条件など、ポイントを助言する。</p>
<p>本時のまとめをする。</p>	<p>図形の性質を使うことよって変形した図形の特徴が説明できることと気づかせ、定理の有用性を感得させる。</p>